

孫正義氏の AI 分野への投資戦略

Gemini Deep Research

はじめに

ソフトバンクグループの創業者であり、会長兼社長を務める孫正義氏は、長年にわたりテクノロジー分野への投資で注目を集めてきました。近年では、AI（人工知能）分野への投資を積極的に展開しており、その戦略は AI 業界全体に大きな影響を与えています。

本稿では、孫正義氏の AI 分野への投資戦略について、最近の投資先、重点分野、長期的なビジョン、ソフトバンクグループの AI 関連事業の動向などを詳細に分析し、今後の展開を予測します。

近年の投資先と重点分野

孫正義氏の AI 分野への投資は、ソフトバンクグループ傘下の「ソフトバンク・ビジョン・ファンド (SVF)」を通じて行われています。SVF は、世界中の有望なテクノロジー企業に投資を行うファンドであり、AI 分野はその中でも重要な投資対象となっています。

ソフトバンク・グループは、傘下の SVF を通じて「投資先をつなぐことで AI 企業群のエコシステムを構築し、投資プラットフォームとしてシナジー効果を発揮させる」戦略を掲げています。¹ これは、投資先企業同士の連携を促進することで、AI 技術の開発を加速させ、新たな市場機会を創出することを目的としています。

SVF は、2016 年に設立された 1,000 億ドル規模の「Vision Fund 1」と、2019 年に設立された「Vision Fund 2」を通じて、AI 分野への投資を行っています。² これらのファンドは、AI アプリケーションや AI インフラストラクチャに焦点を当て、多数の企業に投資を行ってきました。

最近の投資先としては、以下の企業が挙げられます。

- **OpenAI:** 対話型 AI「ChatGPT」の開発元²
- **Perplexity AI:** AI 検索エンジンスタートアップ²
- **Graphcore:** AI ワークロードを加速させるインテリジェンス処理ユニット (IPU) の開発元²

これらの投資先から、孫正義氏の AI 分野における重点分野が見えてきます。

- **生成 AI:** ChatGPT のような、人間のように自然な文章や画像などを生成する AI 技術²
- **AI 基盤技術:** AI 開発を支える、データ収集・分析ツールや半導体などのハードウェア²
- **AI 応用:** 消費者向けアプリ、企業向けソリューションなど、AI を活用した様々なサービス²

特に、OpenAI への投資は、孫正義氏が生成 AI に大きな期待を寄せていることを示しています。ChatGPT は、その高度な言語処理能力で世界的に注目を集めており、AI の新たな可能性を示すものとして高く評価されています。

また、Graphcore への投資は、孫正義氏の AI エコシステム構築戦略と深く関連しています。² Graphcore の IPU 技術は、AI アプリケーションの処理能力を大幅に向上させることができ、OpenAI などの AI アプリケーション開発企業とのシナジー効果が期待されます。

さらに、孫正義氏はトランプ政権が主導する AI 投資計画「スターゲート計画」にも参画しています。¹ この計画は、AI データセンターなどに 4 年間で計 5,000 億ドル（約 78 兆円）を投じるという大規模なものであり、孫正義氏の AI 分野への投資の規模と影響力を示しています。

加えて、ソフトバンク・グループは、中国への投資にも積極的です。出資先は配車サービスや保険、ヘルスケア、フィンテック、トラック配車、食の宅配、教育、動画共有、自動車販売など多岐に渡り、保有する株式のうち約 7%が中国株となっています。¹

長期的なビジョン

孫正義氏は、AI が将来、人類の知能を超える「汎用人工知能（AGI）」へと進化すると信じており、その実現に貢献することを目指しています。² AI 技術の活用によって社会の課題を解決し、人々の生活改善を目指すという強い意気込みも語っています。⁴

孫正義氏にとって AGI は単なる技術革新ではなく、「唯一関心のあるもの」であり、自身を「AGI の礎石の一つ」として記憶に残したいと考えています。² このビジョンを実現するために、孫正義氏は AI 分野への投資を継続し、AI 技術の発展を加速させようとしています。

特に、AGI を実現するための鍵となる半導体分野への投資に力を入れており、2023 年 9 月には半導体設計大手 Arm を再上場させました。² これは、ハードウェア分野における重要な一歩であり、AI 戦略を加速させるための布石と捉えられます。

さらに、孫正義氏は「laznagi」というコードネームで、最大 1,000 億ドル規模のベンチャーキャピタルファンドの設立を計画しています。² このファンドは、Nvidia のような巨大企業と競合する半導体設計ベンチャー企業の設立や、Arm による AI 特化型半導体事業の立ち上げを支援する可能性も報じられています。

また、OpenAI の CEO である Sam Altman 氏との会談では、AI 開発を支援するための新たなチップ工場やデータセンターの建設について議論したとされています。² これらの取り組みは、AGI 実現に向けた基盤を構築するための重要なステップと言えるでしょう。

ソフトバンクグループの AI 関連事業の動向

ソフトバンクグループは、AI 関連事業を幅広く展開しています。

- **通信事業:** ソフトバンク株式会社は、携帯電話事業において AI を活用した顧客サービスの向上に取り組んでいます。⁵
- **インターネット事業:** Yahoo! JAPAN や LINE などのグループ企業は、AI を活用したサービス開発を進めています。⁵
- **投資事業:** SVF を通じて、AI 分野の有望なスタートアップ企業に投資を行っています。⁶

これらの事業に加えて、ソフトバンク・グループは、グループ全体の戦略として「**Group Strategy**」を掲げています。⁶ これは、各投資先企業が互いに刺激し合い、事業を拡大し、ビジネスモデルを進化させることで、企業価値を高め、ひいてはソフトバンクの保有価値を高めることを目指すものです。

特に、**Arm** はソフトバンクグループの **AI** 戦略において重要な役割を担っています。⁷ **Arm** は、**CPU** と **NPU** に、**Cortex-A**、**Cortex-M**、**Cortex-R**、**Neoverse**、**Ethos**、**SecurCore** など、様々なデバイスの要求に応える幅広いプロセッサを提供しており、これらのプロセッサは、スマートフォンからスーパーコンピュータまで、様々な **AI** デバイスに搭載されています。

ソフトバンクグループの財務報告書やプレスリリース⁸によると、**AI** 関連事業の売上高や利益、投資額などの具体的な情報は開示されていません。しかし、上記の事業活動から、ソフトバンクグループが **AI** 技術の活用を積極的に推進し、新たなビジネスモデルの創出を目指していることが伺えます。

今後の展開予測

孫正義氏の **AI** 分野への投資戦略は、今後も以下の方向で展開されると予測されます。

- **生成 AI への投資強化:** ChatGPT のような生成 **AI** 技術は、今後ますます発展し、様々な分野で活用されると予想されます。² 孫正義氏は、この分野への投資をさらに強化し、新たなビジネスチャンスを創出する可能性があります。
- **AI 基盤技術への投資拡大:** **AGI** の実現には、**AI** 開発を支える基盤技術が不可欠です。² 孫正義氏は、半導体、データセンターなど、**AI** 基盤技術への投資を拡大し、**AI** エコシステムの構築を加速させる可能性があります。
- **AI 応用分野の開拓:** **AI** 技術は、様々な分野に応用することができます。³ 孫正義氏は、医療、教育、金融など、新たな応用分野を開拓し、**AI** の社会実装を推進する可能性があります。
- **OpenAI との連携強化:** OpenAI との連携を強化し、**AI** チップ工場やデータセンターの建設を推進することで、**AGI** 開発を加速させる可能性があります。²

孫正義氏の **AI** 戦略は、最先端の **AI** 技術と基盤となるハードウェアの両方に焦点を当てている点で、他のテックジャイアントとは一線を画しています。² この戦略により、ソフトバンクは将来の **AI** 市場において大きな競争優位性を獲得する可能性があります。

しかし、同時に、競争の激化、**AGI** の倫理的な問題、新興技術への投資に伴う財務リスクなど、克服すべき課題も存在します。¹

結論

孫正義氏は、**AI** が未来を大きく変える技術であると確信し、その発展に積極的に貢献しようとしています。彼の投資戦略は、**AI** 業界全体に大きな影響を与えており、今後の動向に注目が集まります。

特に、**AGI**の実現に向けた長期的なビジョンと、それを実現するための積極的な投資戦略は、**AI**業界の未来を形作る上で重要な役割を果たす可能性があります。**Vision Fund**による投資、**Arm**の再上場、そして「**laznagi**」プロジェクトなど、孫正義氏の**AI**への取り組みは、**AI**技術の進化を加速させ、社会に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。

付録

投資先企業	事業内容	技術	市場規模	投資額	ソフトバンクとのシナジー
OpenAI	対話型 AI「ChatGPT」の開発	自然言語処理、深層学習	情報なし	5 億ドル ²	AGI 実現に向けた中核技術、Arm の AI チップとの連携
Perplexity AI	AI 検索エンジン	自然言語処理、情報検索	情報なし	30.8 億ドル ²	情報検索分野への進出、OpenAI との連携による高度化
Graphcore	AI ワークロードを加速させる IPU の開発	半導体設計、AI アルゴリズム	情報なし	買収 ²	AI エコシステムの強化、Arm との連携による AI チップ開発

引用文献

1. 進撃の AI 投資「スターゲート計画」 史上最大の作戦がもたらす「恍惚と不安」, 2 月 3,

- 2025 にアクセス、 <https://www.smd-am.co.jp/market/shiraki/2025/devil250128gl/>
2. ソフトバンク、OpenAI に 5 億ドル投資の目論見...孫正義氏の壮大な AI ..., 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://www.businessinsider.jp/article/294569/>
3. Graphcore: Accelerating machine learning in the cloud, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://www.graphcore.ai/>
4. 米オープン AI とソフトバンクグループ主導、トランプ政権が支援する ..., 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/01/1d685a00f601753a.html>
5. ソフトバンク, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://www.softbank.jp/>
6. ソフトバンクグループ株式会社, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://group.softbank/>
7. Building the Future of Computing – Arm®, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://www.arm.com/>
8. 株主・投資家情報(IR) | ソフトバンクグループ株式会社, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://group.softbank/ir/>
9. ニュース | ソフトバンクグループ株式会社, 2 月 3, 2025 にアクセス、 <https://group.softbank/news/>